

# インスブルック 観光の基本・見どころ・アイデアなど

雄大なアルプスの高峰に囲まれた山の都、そしてヨーロッパ・アルプス最大の古都インスブルック。街の名は「イン川に架かる橋」ということに由来し、チロル州の州都です。古代ローマ帝国時代以来、ヨーロッパの東西南北を結ぶ交通の要衝として大変重要な役割を果たしてきました。ハプスブルク家の下、政治、経済、芸術の中心地として大いなる発展を遂げ、現在でも中世都市の面影を強く残しています。



## インスブルック半日市内観光

- ◇凱旋門
- ◇聖アンナ記念柱
- ◇黄金の小屋根、ヘルプリングハウス、市の塔
- ◇宮廷教会、またはホーフブルク王宮 <内部見学>
- ◇大聖堂(聖ヤコブ寺院)
- ◇オリンピック・ジャンプ台  
ガイド：日本人ガイドが7名います



	交通機関	スケジュール
1	バスと徒歩 ロープウェイ等	午前：市内観光 午後：自由行動、 またはケーブルカー等でノルトケッテ山へ 夜：チロルの夕べ [インスブルック泊]

## インスブルックの見どころ Sightseeing Points



### 黄金の小屋根

ハプスブルク家の黄金時代を築いた皇帝マキシミアン1世のもとで、広場の行事を見物するときの宮廷用観覧席として建てられた、後期ゴシック様式の張り出しテラスで、金箔をはった2657枚の瓦から、“黄金の小屋根”と呼ばれています。

### ヘルプリングハウス

15世紀の貴族の邸宅。もとはゴシック様式だったものを、18世紀前半に外観がロココ式に改装。ファサードには、1730年頃の後期バロック様式のしっくい装飾が施されています。

### ホーフブルク王宮

ジークムント大公が1460年に創建、その後女帝マリア・テレジアが改装した、丸屋根が美しい宮殿。内部はロココ調の繊細な内装で、華麗なシャンデリアや天井画で飾られた大広間が見もの。皇帝のインスブルックへの愛着が伝わってくる王宮です。

### チロル民族博物館

オーストリア内でも非常に価値の高い郷土博物館。チロル地方の民族衣裳、15～16世紀の農家を移築した部屋、農民の家具、キリスト生誕の場面を描いた人形クリッペなど展示品が多く、過去から現在にいたる、この地方の人々の生活を知ることができます。

### 宮廷教会

入口はチロル民族博物館と同じ。マキシミアン1世の像が置かれた棺と、ゆかりの28のみごとなブロンズ像がある教会として有名。デューラーのデザインしたアーサー王の像や、チロルの英雄アンドレアス・ホーフターの墓が堂内にあります。



### 聖ヤコブ寺院

18世紀に古い教区教会のあった場所に建てられたバロック様式の教会。ルーカス・クラナッハ筆の有名な「救いの聖マリア」像のある祭壇、C.D. アーザムの天井画、バロック様式の説教壇が美しく、堂内には荘厳なムードが漂っています。

### 市の塔

1442年から50年にかけて、市庁舎に併設して建てられた塔。塔上から見る街並みや山並みの景観は最高です。

### アンブラス城

ハプスブルク家ゆかりのルネッサンス様式の城、アンブラス城は、1564年に増築され現在の規模になりました。チロル大公フェルディナンド2世が、愛妻で平民出身の妃フィリピーネのために11世紀の城をルネッサンス様式に改装・拡張し、財力にもの言わせてそこに膨大な美術工芸品や武具甲冑を収集展示しました。この収集品が、ウィーンの美術史美術館やハプスブルク家の絵画や美術工芸品の基礎となりました。図書室、武器と甲冑の展示室の他に、43mの奥行きを持つスペイン広間もあり、大広間では古楽器コンサートが開催されることもあります。

4月～10月 火曜を除く10時～17時  
12月～3月 火曜を除く14時～17時  
[www.khm.at/ambbras](http://www.khm.at/ambbras)

### ベルクイーゼルのジャンプ台

1年中パッチャーコーフェル、ノルトケッテ、ホーエ・ムンデなどのアルプスの山々の素晴らしい展望が楽しめます。パノラマ・カフェ(120席)は、19時から深夜1時にかけてはインセンティブのグループ等の貸し切りのイベントに利用できます。

大人 7.9ユーロ、  
団体(20名以上 6.5ユーロ)  
毎日 09:00～17:00。  
インスブルックカードで入場無料。  
[www.bergisel.info](http://www.bergisel.info)

